

# 平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析から(中学校)

## 《内容》

- 1 学力調査結果について
- 2 学習状況調査結果について

日時:平成30年10月23日(火)

場所:中津市立中津中学校

主催:中津教育事務所

# 平成30年度全国学力・学習状況調査の結果の概要

■調査期日 平成30年4月17日(火)

※数値は公立学校のみ。大分県の数値は整数値。後日実施は含まない。

## (1) 小学校(第6学年)の平均正答率

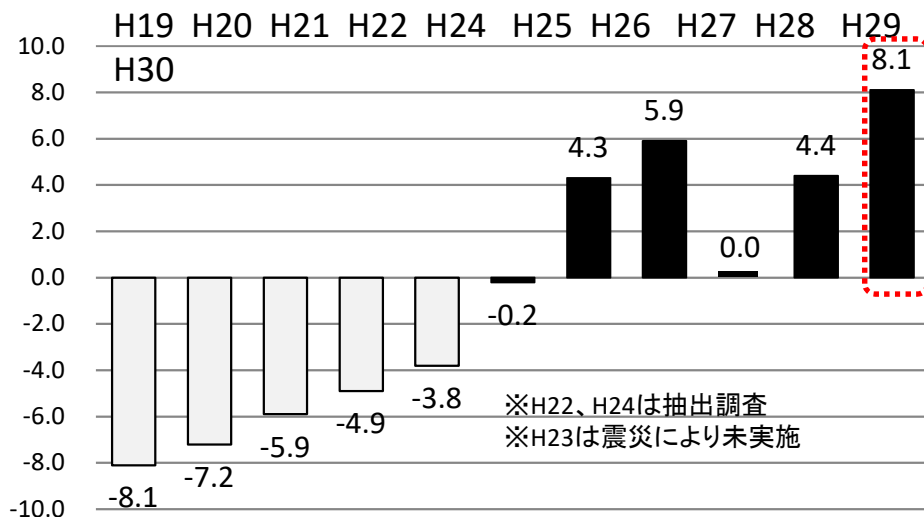
教科・区分	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)	理科
大分県	72	56	65	52	63
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3

## (2) 中学校(第3学年)の平均正答率

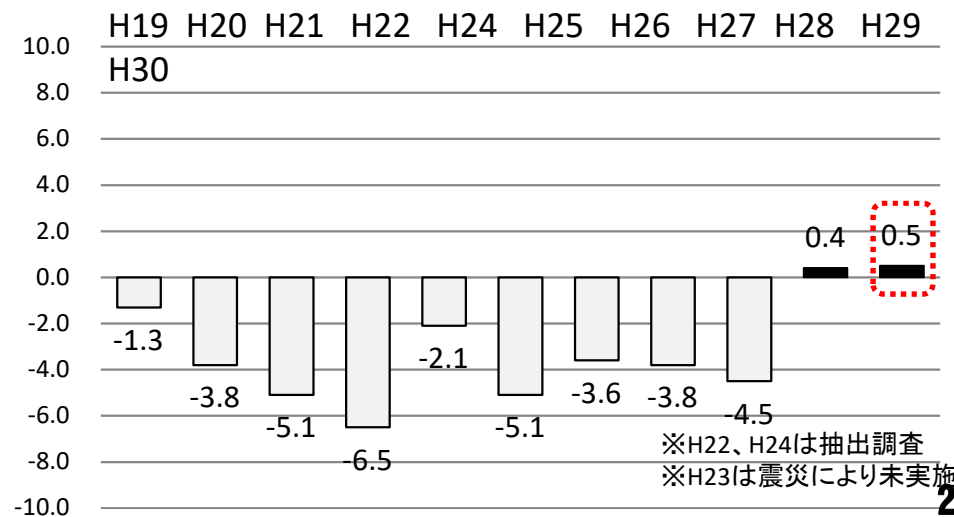
教科・区分	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)	理科
大分県	77	62	66	45	67
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1

## (3) 学力の経年変化〔大分県と全国との平均正答率合計(小数第1位まで算出)の差〕

### 小学校 (第6学年)



### 中学校 (第3学年)



# 1 学力調査結果について

## 平成30年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(国語)

### □ 結果概況

- ・国語Aでは、全ての領域において正答率が全国平均を上回った。
- ・国語Bでは、領域「話すこと・聞くこと」の正答率が、全国平均を0.3ポイント下回った。

### ■ 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。

(A8四二:大分県20.1%・全国22.3%)

→ 文の中における主語を捉えたり、主語を明示しながら適切に表現したりすることに課題があると考えられる。文を書く際には、文の成分の順序や主語と述語の照応などを整え、伝えたいことが相手に伝わるようになっているかを常に吟味するように指導することが大切である。

### ◆平成30年度全国学力調査問題【中国語 A8\_4】

1

次の言葉の意味として最も適切なものを、あとの1から4までの中から1つ選びなさい。

心を打たれる

- 1 遠慮する。
- 2 感動する。
- 3 1つのことに集中する。
- 4 あれこれと心配する。

2

「心を打たれた。」を文末に用いた一文を書きなさい。なお、「心を打たれた」の主語を明らかにした上で、「誰(何)」の「どのようなこと」に「心を打たれた」のかが分かるように書くこと。

# 1 学力調査結果について

## 平成30年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(数学)

### □ 結果概況

- ・ 数学Bでは、領域「関数」以外の正答率が、全国平均を下回る。
- ・ 「説明する問題」に対して、最後まで解答を書こうと努力する生徒は増加している。

### ■ 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】通常料金を $a$ としたときの団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算からわかることを選び、その理由を説明する。(B5:大分県9.3%・全国10.4%)

→ 日常的な事象の考察において、表・式・グラフなどから得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができるように指導することが大切である。ある事柄が成り立つことを説明する際には、説明すべき事柄とその根拠の両方を示し、数学的な表現を用いて簡潔にわかりやすく説明することができるように指導することが大切である。

### ◆ 平成30年度全国学力調査問題【中数学 B5 (2)】

	S社	T社
プラン名	史跡巡りプラン	史跡巡りプラン
通常料金	1人3500円	1人3200円
団体料金	1人2940円	通常料金の10%引き
団体料金の利用可能人数	8人以上	10人以上

そこで、通常料金が変わった場合、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかについて調べるために、T社の通常料金を $a$ 円として、次のように計算しました。

団体料金は、通常料金 $a$ 円の10%引きだから、  
 $a - a \times 0.1 = a - 0.1a = 0.9a$   
団体料金 $0.9a$ 円の10人分は、  
 $0.9a \times 10 = 9a$   
通常料金 $a$ 円の何人分にあたるかを求めるから、  
 $9a \div a = 9$

上の里奈さんの計算2からわかることがあります。下のア、イの中から正しいものを1つ選びなさい。また、それが正しいことの理由を説明しなさい。

ア 通常料金が変われば、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わる。

イ 通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

# 1 学力調査結果について

## 平成30年度全国学力・学習状況調査結果のポイント(理科)

### □ 結果概況

・「理科が好き」と回答した生徒は、全国平均を上回る。一方で、「理科が分かる」と回答した生徒は、全国平均を下回る。

### ■ 課題が見られた問題と学習指導のポイント

【課題】1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる。(2(4):大分県56.8%・全国61.3%)

→「変える条件」に伴って変化する「変わってしまう条件」を指摘できるようにする。

・科学的に探究する能力の基礎や態度を育成する上で、自然の事物・現象の中から要因を抽出し、適切に条件を制御して観察・実験を計画する。

- ①「変化すること(従属変数)」と「原因として考えられる要因」を全て挙げ、それらの妥当性を検討。
- ②それらの要因を「変える条件(独立変数)」と「変えない条件」に整理し、実験を計画する学習場面を設定。
- ③「変化すること(従属変数)」以外に「変える条件(独立変数)」に伴って「変わってしまう条件」について検討。

### ◆平成30年度全国学力調査問題【中理科 2(4)】

#### 【考察】

蛍光灯の下で明るさの条件を変えた実験では、 ので、アサリが出した砂の質量は、明るさに関係しているとはいえない。

#### 【新たな疑問】

もっと明るい光を当てれば、砂を出さなくなるのだろうか。

#### レポートの続き

#### 【新たな課題】

蛍光灯の下よりもっと明るい場所では、アサリが出す砂の質量は少なくなるのだろうか。

#### 【新たな実験】

蛍光灯の下でアサリが出す砂の質量と、明るい窓ぎわの光の下でアサリが出す砂の質量を比較する(図2)。

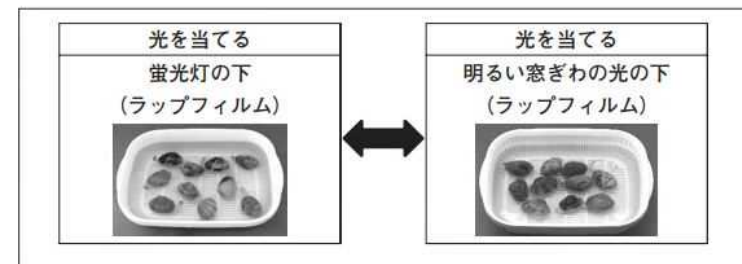


図2

- (4) 春子さんと航太さんは、【新たな実験】で、もっと明るい場所に置くことによって明るさ以外にも変わってしまう条件があると考えました。変わってしまう条件として考えられるものを1つ書きなさい。

## 2 学習状況調査結果について

	H30 全国生徒質問紙 調査項目	全国	大分県
意欲	自分には良いところがあると思う	78.8	80.2
	先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思う	82.2	85.2
	将来の夢や目標を持っている	72.4	73.5
規範意識等	学校のきまりを守っている	95.1	95.4
	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う	95.5	96.5
	人の役に立つ人間になりたいと思う	94.9	95.8

## 2 学習状況調査結果について

	H30 全国生徒質問紙 調査項目	全国	大分県
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強している	52.1	53.4
	家で、学校の宿題をしている	91.6	92.6
	平日、1日2時間以上勉強している	36.4	43.9
AL	前年度の授業で課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んできた	73.8	74.2
	前年度の授業で発表するとき、資料や文章、話の組み立てなどを工夫していた	53.8	52.7
	話し合う活動を通じて、自分の考えを深化拡充できている	76.3	78.1

## 2 学習状況調査結果について

	H30 全国学校質問紙 調査項目	全国	大分県
学び に向 かう 力	生徒は授業中の私語が少なく落ち着いていると思う	58.0	54.3
	生徒に学習規律を徹底した(指導をよくやった)	68.3	77.2
	生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組をよく行った	55.7	62.2
	生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことが出来ている	15.3	17.3



## 2 学習状況調査結果について

	H30 全国学校質問紙 調査項目	全国	大分県
特別支援	特別支援教育について理解し、板書や説明の仕方、教材の工夫等をよく行った	41.0	47.2
授業改善	生徒に習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の工夫改善をした	26.1	37.8
	プロジェクター、電子黒板等のICTを活用した授業を1クラス当たりほぼ毎日行った	36.2	37.0
	生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たり週1回以上行った	33.5	39.4
家庭学習	家庭学習の与え方について校内の教職員で共通理解をよく図った	37.5	52.0
	児童(生徒)に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えることをよくした	32.0	43.3

## 2 学習状況調査結果について

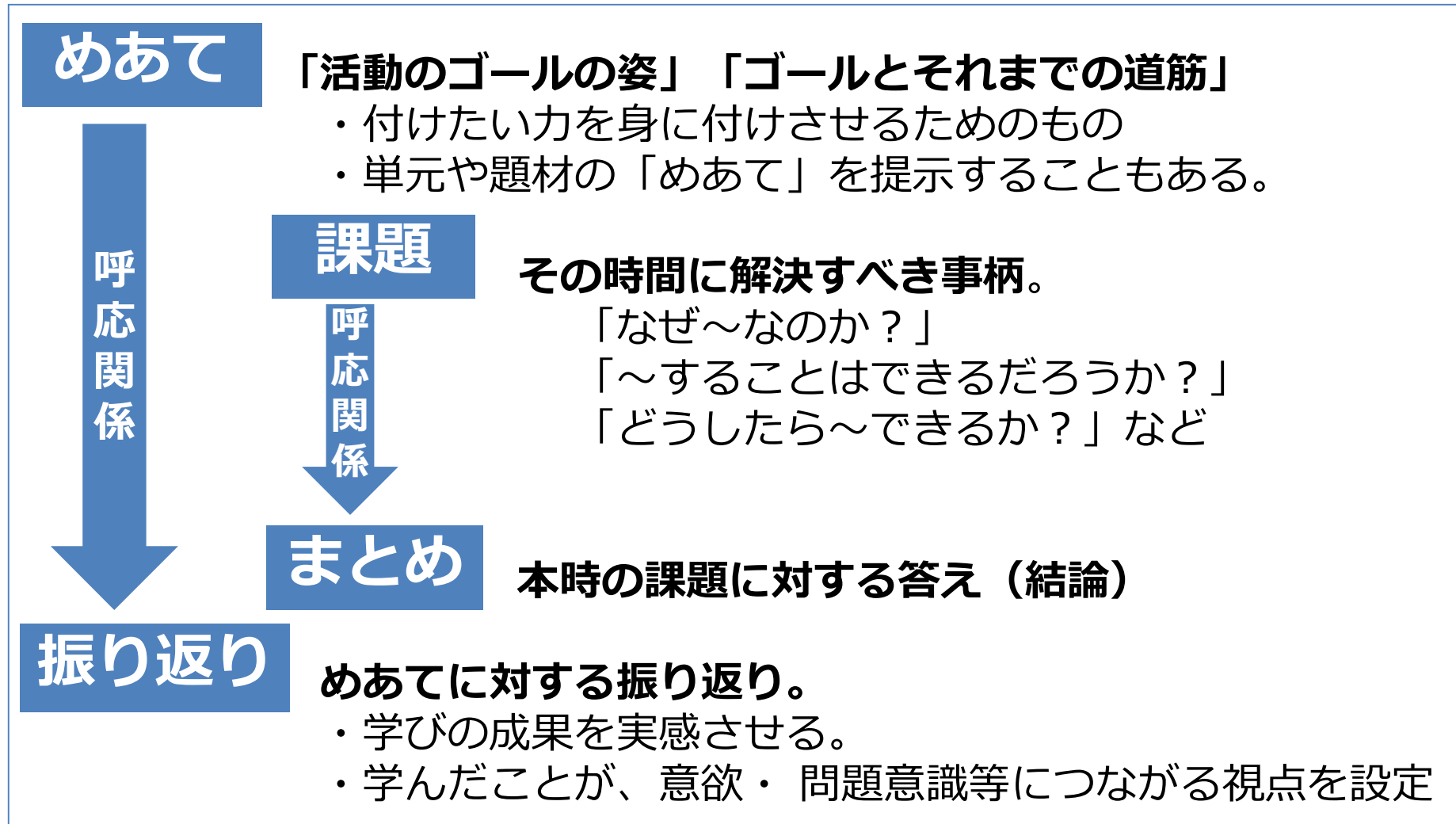
【参考】H30大分県学力定着状況調査 生徒質問紙(中学校2年)

	H29	H30
めあて・課題が示されていた	91.4	92.6 (+4.8)
まとめや振り返りを行っていた	77.1	79.5 (+13.4)
話し合う活動を行っていた	86.9	89.1 (+7.3)
課題をたて、解決に向けて調べたり、話し合ったりした	74.2	77.5 (+6.2)

※数値は、肯定的な回答の割合 ※( )内の数値は、全国値との比較

# 新大分スタンダードに基づく授業改善

## 主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」



## 1時間完結型授業の充実に向けて —各教科等の「例」の見方—

ねらい	<ul style="list-style-type: none"><li>○「目的（身に付けさせたい力など）」と「手立て（その授業の中心となる学習活動）」を明らかにして設定します。</li><li>○評価規準は「ねらい」との整合性をもたせて設定します。</li><li>○指導のねらいは、教師の立場で書くもので児童生徒に提示することは基本的にありません。 ※ただし、指導案では「～できる」という形で、児童生徒の「目標」として提示することもあります。</li></ul>
めあて	<ul style="list-style-type: none"><li>○「ねらい」を児童生徒の立場で示したものです。</li><li>○具体的には、付けたい力を身に付けさせるための、めざす「活動のゴールの姿」や「ゴールとそれまでの道筋」を示します。</li><li>○具体的な評価規準が設定できていないと、「めあて」が曖昧なものになります。</li><li>○学習の見通しを持たせ、意欲を高めるものになるように工夫しましょう。</li></ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"><li>○その時間に解決すべき事柄です。</li><li>○「なぜ、～なのか」「～することはできるだろうか」「どうしたら～できるか」等疑問の形で示します。</li><li>○児童生徒が追究したくなる課題になるよう工夫しましょう。<ul style="list-style-type: none"><li>①既習事項や既有事項とのズレがある</li><li>②意見の対立・拮抗が生じる</li><li>③目標達成のために越えなければならないハードルがある</li><li>④素朴な驚きや疑問、憧れから問題意識が醸成される 等の要素がある課題になるよう工夫しましょう</li></ul></li></ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"><li>○本時の課題に対する答え・結論。</li></ul>
振り返り	<ul style="list-style-type: none"><li>○学びの成果を実感させ、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげられるよう視点を設けましょう。その際、本時のキーワードや学習用語を用いる等の条件を設定して学びを振り返らせるなどの工夫をしましょう。</li></ul>

「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つがどの授業でも必要であるというわけではありません。「めあて」と「課題」の提示の順序が変わることもあります。大切なことは、型にこだわるのではなく、教科の特性や単元の展開、本時のねらい等に応じて適切に設定することです。

# 新大分スタンダード

新大分スタンダードで  
主体的・対話的で深い学びを実現！

「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成するワンランク上の授業

## 1 1時間完結型

「主体的な学び」を促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」

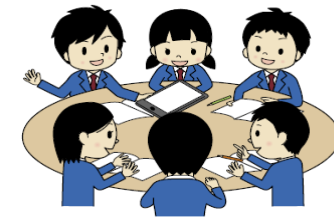
- \*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
- \*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
- \*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」

## 2 板書の構造化

- \*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を振り返ることができる板書

## 3 習熟の程度に応じた指導

- \*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- \*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫



安心して学べる「学びに向かう学習集団」

## 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開

主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）を創造する学習展開

- \*各教科等の見方・考え方を働かせて展開する
- 「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰
- ・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考え返基の中創造される
- ・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

H30.3月版

## 本県が目指す授業改善のポイント 3

自然と生徒主体の授業、問題解決的な展開の授業になるはず

### 1 自己決定の場を与える

課題に対して、追究し自分の考えをもつ

### 2 自己存在感を与える

個々の活動の場（発表・発信）・成就感  
個に応じた指導

### 3 共感的人間関係を育む

交流し、他者を認め合い励まし合い  
新しい考えを創造



自己存在感

自己決定

途中までは説明  
できそうだから  
聞いてください！

共感的人間関係

※ワールドカフェ形式で以下実施

【協議1】

テーマ:「中高連携した授業改善を推進していくためには」

- ・中学校が授業改善を行ってきた内容、方向性、進捗状況等
- ・高校につなげたいこと
- ・具体的に中学で定着してほしいこと
- ・高校で求められている資質、能力 等

※関連のある事項を明示している者同士で再度班を構成

【協議2】

テーマ:「授業改善推進の具体策等について」

○協議内容を更に深化について協議を再開、続行

→協議内容をまとめる(改善策、今後の展望、方向性等)

【発表及び総括】

各班より発表⇒総括(中津教育事務所)



## H30 中津教育事務所管内中高連携協議会 改善策

<b>A</b>	中高の連携で着実な6年間の積み上げを ・互いの授業を互見(ジョイント授業、ようこそ先輩、体験入学) ・つなぎ教材の作成、活用
<b>B</b>	中高の情報共有の促進 ・授業公開の実施    ・教科ごとの合同部会 ・相互乗り入れ授業
<b>C</b>	表現力の育成 ・調べ学習(グループ学習、モチベーションの向上) ・発表する(ICT、等)
} 基礎学力の定着	
<b>D</b>	子どもの学習へのモチベーションの向上 ・スモールステップでの積み上げ    ・そのつど評価、ほめる⇒自信 ・振り返りの工夫(小テスト、解答、生徒同士の確認)
<b>E</b>	基礎学力・学習習慣の定着 ・少人数の対応、個別指導の充実    ・TTやICTの活用 ・支援員の授業での配置、活用    ・UDの視点による授業構想
<b>F</b>	生徒同士で説明する力をつけるための授業改善 ・生徒の状況を見極めた課題の設定 ・習熟の程度の応じた授業により、主体的な学習活動の補償 ⇒説明する、表現する力の育成